最新

唱歌教科書

附伴奏

內閣圖書

あがる雲雀

(Weber)

Allegretto

一 あがるひばりヨ　アアア
一 あがるひばりヨ　アアア
一 カレヨマナビテ

コーノヨノケーガーレサケーテノボル
はーるけきのーぞーみどぐーとのぼる
コーコロハキーヨークノゾミハルケ

カク

1.2.　3.

雲雀 (参考教材)

(Curschmann)

Allegretto

一ミドリノソカ
二かさなるしら

クサシトネニシキテカスミノミソラヲウタ
くもつばさにわけてのぼりしそのかげみつ

ヒツマヒツノボリテクダリテヒトヒラオク
つしをればいそぎておちくるかげいさまし

(Curschmann ハ三部楢唱田毎の月ノ原作者ナリ)

美はし〳〵春のながめ
美はし〳〵春のながめ。

二、青葉をわたる風のひゞき
門邊をめぐる水のしらべ
自然なる樂を奏で
神の祕非我れに語る
美はし〳〵夏のながめ
美はし〳〵夏のながめ。

三、草葉の末にやどる露を
眞玉と見する月の光り
人の心にかゝる雲も
はれよとばかり汝れは照るか
美はし〳〵秋のながめ
美はし〳〵秋のながめ。

四、一夜のほどに山も丘も
時じく花に埋れはてて
見ゆるかぎりは一つ色の
神のみわざの樂土なれや
美はし〳〵冬のながめ
美はし〳〵冬のながめ。

○園のあした

犬童球渓

（春）

一、短か夜の醒めぬ夢
鳴く鳥に喚ばれ
臥床起き出でて窓あけ見れば
薫れる朝風聞にぞ通ひて
露にぬるゝ櫻は笑ひ
垂るる絲の柳は招く。

（秋）

二、初霜のおきまさる
朝の庭清め
心注ぎてし園生を見れば
崇多き薫りはあたりをこめつ
濁り知らぬ白菊笑まひ
金光帶ぶる黄菊はなびく。

○鶯

犬童球渓

一、深山の古巣をとく〳〵いでて
ほゝゑみそめたる軒ばの梅に
こゑもほがらにうたふ鶯
來る春忘れぬ　やさしの鳥よ。

二、幸ある此世の一年なれど
再び來らん春こそなけれ
梅の花びら散らさぬほどに
その聲たえせず　うたへやうたへ。

○旭の旗

犬童球渓

一、み空に輝やく旭のみ旗に、
み國の榮ゆる姿は見えたり。
見よや見よや自地圓かに、
赤く染めて四方を照す。
仰げや人よ、かざせ友よ、旭の光り輝く
所、かざせ日の旗。守れ日の旗。

二、旭にきらめくみ國のみ旗に、
いきほひ溢るゝ其さまを見えたり。
見よや見よや赤き心を
聞くそめて、國を守る。
仰げや人よかざせ友よ、御國の民の到らん所、かざせ日の旗。守れ日の旗。

○幼兒

犬童球渓

一、眠れる幼兒何を夢みる
ほゝゑむ其の顏その口もと
現世に降れる御神の使ひか
愛らしこれなる幼兒。

二、笑へる幼兒何を喜ぶ
涼しき其のこゑそのふるまひ
眞玉の眼に映るは希望か
愛らしこれなる幼兒。

○里の眺め

八波則吉

一、花咲く野邊を
うねりくねり
小川の流れ
輝る日に映えて
布を晒す。

二、麓の里の
彼の面　此の面
夕餉の煙
木立を洩れて
夢を誘ふ。

○あがる雲雀

犬童球渓

一、嗚呼み空に高く　あがる雲雀よ
嗚呼この世の汚れ避けてのぼるか。

二、嗚呼雲居に高く　あがる雲雀よ
あゝ遥けき希望遂ぐとのぼるか。

三、嗚呼この世の人よ　かれを學びて
あゝ心は清く希望遥けく。

○雲雀

犬童球渓

一、綠の若草しとねにしきて
霞のみ空を歌ひつ舞ひつ
のぼりて下りて一日を送る
そのかげ幽けき春野のひばり
あゝ〳〵雲の上のあゝ〳〵星の世界の
天なる不思議を探るかひばり
あれ〳〵重なる雲間を分けつゝ
早やも其のかげ見えずなれど
あはれ聲のみ空にのこる。

二、重なる白雲翼に分けて
のぼりしそのかげ見つつし居れば
急ぎて落ちくるかげ勇ましく
共聲樂しき春野のひばり
あゝ〳〵雲の上のあゝ〳〵星の世界の

昭和三年四月十日印刷
昭和三年四月十三日發行

定價金壹圓參拾錢

編纂者　若狹萬次郎

東京市小石川區八千代町四十二番地
發行兼印刷者　若狹萬次郎

東京市小石川區八千代町四十二番地
發行所　交響社出版部

不許複製